

# 大谷翔平の年俸100億円は高すぎる？



## 本題のねらい

「適正価格とは何か？」という抽象的な問いを軸に、経済学における根本的な対立軸である「市場主義・自由市場主義」の対立構造をつかき、「市場の失敗」といった技術的な話ではなく、「そもそも何を以て『適正』とするか？」という哲学的な問いに取り組みたい。

## 本題内で学ぶこととなる知識・制度の概要

機会費用・需要曲線・供給曲線・価格の自動調整機能・ニューディール政策・ケインズ・フリードマンの小さな政府と経済の効率化の関係・市場経済の限界・外部不経済・公共財と私的・余剰

## プロローグ卒業した時の生徒の状況

商品に価格がつけられることや、それが変動することなどもともとも知っているものとして、本学習を経て「良い（望ましい/適正な）価格」や「悪い（望ましくない/適正でない）価格」があるのだという視点を育む。

## 漢字知識のねらい

「人がモノを売るのはどんな場合か？」を考えるきっかけを与える。例えば「いくらだったか“チャンス”を逃した」などと問いかけるとを通じて、市場価格とは「自分自身にとっての価値（→その商品から得られる効用）を定義できるのだと気づかせることができる。これは知識編で登場する「余剰」概念の導入にもなる。現代経済学の理論的根拠である効用理論にも簡単に理解することにつながる。もっとも、漢字知識を受けて導入する段階ではそこまで深入りした話をする必要はない。「価格」と「自分（買い手・売り手）にとっての価値」の関係に意識を向けさせよう。

## 漢語のねらい

真意はあくまで「価格が上がるものと仮定できる」という道義的価値を持つことであり、それ以外の価値がある訳ではない（内在的価値がある訳ではない）。この場合、価値を持つのはあくまでも市場の取引でなく（効用）であり、知識編で登場する「余剰」概念と関係。「価値」と「自分（買い手・売り手）にとっての価値」の関係に意識を向けさせることが、本題の学びを効果的にする。なお、「たのびのび」という形容詞の意味はそれ自体肯定し学業がある限りでない、褒め言葉は「コマカク」で取り上げてみるのも良い。

## Prologueの意図：

中学公民で需要供給曲線を用いて「価格がどのように決まるか？」を学ぶが、高校ではさらに「どのような価格が望ましいか？」という規範的な問いを扱いたい。アセメグル・レイブソン・リスト【入門経済学】は、前者を**実質的経済学**、後者を**規範的経済学**として整理している。現行の学習指導要領と経済学の入門書をもとに考えると、高校の公民教育で導入すべき「価格の望ましさの基準」は、**社会的余剰によって定義される効用理論**と、結局や機会費用の平準によって定義される公平性の2つに大きく分解できる。「効率と公正（公平）」という判断の組み立ては中学公民で導入されているため、高校公民では効用性概念を価格メカニズムと結びつけることに主眼を置きたい。本プロローグでは、効率性や社会的余剰の実質的な解釈には立ち入らず、「そもそも価格の『適正』とは何か？」というメタレベルの問いに向き合う。

## 背景知識の解説：

導入では「トレカシに5万円」「大谷翔平と保育士の報酬格差」という身近で規範的な問いを扱う。生徒たちは直感的に「高すぎる/割れない」と反応しつつ、「でも市場で決まってるんだよね〜」という疑問にも触れるはずだ。この授業は、そうした疑問の背景にある「市場に委ねることとは何か」という問いをあまり出さず、次の三つの設定が規範の前線になっていることを押さえておくと、生徒の声に反応しやすくなる。

## 1. 完全競争で、かつ「市場の失敗」がない

「価格」概念が生じている場合（不完全競争）や、**外部性・情報の非対称性・不確実性・非排他性・非競争性**などが存在する場合（市場の失敗）に市場が実現する価格が社会全体の利益を最大化しないことは広く知られており、高校公民でも扱われてきた。市場主義の祖とも言えるアダム・スミスも公共財的性格を持つもの（例：国防）は政府が供給すべきだと主張していたし、現在でも政府の経済介入を一掃しなくてはならないと主張する者は少ない。

一方で、国防や公共企業を認めた後々の規制をかけた後にこれらに対処することは、市場の失敗よりも深刻な**経済の失敗**と捉えられて、**ミルトン・フリードマン**をはじめとする自由市場主義者から批判されてきた。市場は完全ではないが、政府が経済に介入するよりはるかにマシだと言うのである。

## 2. 「支払い意思額」が効用を反映する

不完全競争と市場の失敗以前に、「支払い意思額」と「その商品から得られる効用」が一致するとは限らない。**支払意思額に価値がない**という非現実的な仮定を置かなければ、両者は一致しない。市場主義は、額よりも高い商品で「より多くを払う意思がある人」に届けたいことが社会全体の満足度を高めると考える。例えば、マスク1個に5万円払う人はそれだけマスクを欲しているのだから、そういう人々にマスクを買って渡るとは社会的に望ましいというのだ。しかし、これが仮定であることは言うまでもない。保育・看護・教育医療といったサービスを利用する人が購入で高い料金を支払わないのは、その程度しか欲していないのではなく、そもそも高い料金を払うだけの資力の余裕がないことが多い。支払い意思額と効用が一致するという仮定は、富裕向けビジネスの社会基盤が過大に評価してしまっている。

文芸・能力に価値があることは、高校生にとって理解しやすいだろう。小さな頃は大金に思えた千円札が、今ではそれほど大金だと想像できなくなっているからかもしれない。あるいは、最新のゲーム機に数万円出す大人が、自分たよりそのゲーム機を欲しているとは限らないことも考慮しておかなくてはならない。

なお、経済学史においてこの仮定を導入したのは**アール・ランド**と**マーシャル**である。彼は「経済学原理」（1890年）で「[なで]を通させるよりは支払った方が良いと考ふる価値」を「満足（経済的）の」とした。もっとも、マーシャル自身はこの仮定が「当事者間の費かしの違いを無視」したものであると指摘していたが、この指し書きは次第に忘れられていく。それに対して、マーシャルの弟子である**ビグラー**は「教育付加価値の法則」を用いて富裕層から富裕層に所得移動することが社会全体の満足度を向上させることを論じた。

## 3. 規範的判断の基準として功利主義を採用している

不完全競争・市場の失敗・支払い能力の格差以前に、人々の欲求をなるべく多く叶えることが社会的に望ましいのだと考えることは、功利主義（量的功利主義）を前提にしている。しかし、義務論や質的功利主義の観点から、「良い欲求（叶えられるべき欲求）」と「悪い欲求（叶えられない欲求）」を区別したり、欲求の間で優先順位をつけたりすることができるからかもしれない。

だが「良い欲求」と「悪い欲求」は誰がどうやって区別するのか。純文学やクラシックを愛しむのが良い欲求で漫画やアニメを愛しむのは悪い欲求、というように年長者に判断をゆだねれば良いのだろうか。こうした問いを生徒に投げかけることで、本プロローグの最終段階をより深め、OPTIONのB-Cの考え方の対立構造を理解することができる。

なお、政治哲学者の**マイケル・サンデル**が「それをお金で買えますか？」（2014年）で「血液」「大学の入学許可」「ネーミングライツ」などが売買された事例を取り上げながらこの問題を論じている。サンデルの立場はCと近く、価値観の多様性を保護してBに近い考え方を取ったジョン・ロールズを批判したことが知られている。

## OPINIONのねらい

A-B-Cは必ずしも相互に対立するものではないので、それぞれの賛否を両方の方が、うまく活用できるかもしれない。2700歳という極端な大きさに対する道義的な真意を問うことで、Aの考え方を支持する賛否がわかる。一方で、本文の最終段階で問いかけられていることももとに、Bの考え方に対する賛否を問うことができる。

日本語1冊 大谷翔平の年俸100億円は高すぎる？

トレカに5万円、アリファシフ

**アリア**

- 年俸
- 年俸
- 高く売れる

**アリシ**

- 年俸
- 年俸

→ 適正な価格って何？

- どれだけの幸せを求むか
- 作るのにかかる費用
- 年俸

内容の確認

(1)

- エッセンシャル・ワーカー
- 2700億の価値
- 100億円 vs 374万円

(2)

● 希少性 → 需要に対して  
与えられた供給があるか

(3)

● 価値の「価値」  
誰がどうやって決める？

ディスカッション

問題

A 1冊 2冊 3冊

B 3冊 2冊 1冊

C 2冊 1冊 3冊

- 2700億は大きすぎる。100億以下で  
↑ 適正じゃないから 価値は低くなる
- 「価値」を誰が決めるべきか？  
決められない → 市場に委ねるしかない

学習活動 指導上の留意点

## 1 授業の導入

p.68の文章「私たちがふだん、～」を読み上げ、本単元で何を学ぶかを確認する

読者の  
使い方

- 生徒がスマホ等を使用できない場合、プロジェクターなどを利用して動画を投影する

**問題** 「使っていないチャンスある人いますか？」

- いくらだったら売れるか、いくらだったら売れると思うかを尋ねる
- 「もともとお金を持っている人がさらにチャンスを得やすくなりそうだな」と生徒が答える

読者の  
使い方

- 生徒2名を指名し、漫画の読手を読ませる

**問題** 「トレカに5万円、アリファシフ？」

- アリシとナシシに自由に意見を言わせる
- 「価値」「幸福（楽しみ）」といった単語が登場したら黒板に書く

## 2 Prologue～構造理解

生徒を指名し、「労働と報酬の関係」「価値」の決まり方」「経済問題に対する二つの考え方」の3つの章を、章ごとに目録させる

→ 章ごとに内容を確認する間を入れる

- 例：エッセンシャル・ワーカーってどんな人？  
大谷翔平の年俸は保育士の報酬の何倍？

● 冒頭の文章は生徒に読んでもらう

● プロローグの学習を1コマに収める場合、漫画と動画はどちらか一方だけを使うのが良い

● 動画を使う場合、生徒の関心を引くために動画の個人的な解説（「チャンスを選んだ経緯など」）を話しても良い

● 漫画を使う場合、生徒の関心を引くために動画の個人的な解説（「意味に大金を使ったなど」）を話しても良い

● すべての生徒に文章をしっかり読ませたい場合、全員に朗読させたあとで指名して内容を確認する間に答えさせるか、簡単なワークシートを用意しても良い

● 読解力が十分であると考えられる場合、各自朗読とし、内容の確認を省略しても良い

20  
分

## 3 グループワーク (7分)

**問題** 「市場が決める価格（メジャーワーカーとエッセンシャルワーカーの報酬格差）は適正だろうか？」

- 2～3人のグループでA～Cの考え方に賛同するかをディスカッションさせる
- 黒板に表を書き、どの程度賛同するかを番号で記入させる

## 4 全体ディスカッション (7分)

● 黒板に書かれた番号をもとに、生徒に意見を発表させる

① **自分の意見** 報酬格差は何倍までだったら適正だと見える？

② **自分の意見** メジャーワーカーの価値はどのくらいの高さ？ 価値は誰がどうやって決める？

③ **自分の意見** このクラスでは2700億は適正だと判断された？

## 5 解説 (6分)

● 経済学は「原則として市場が適正な価格を決める」と考える

● 例外がたくさんある。代表的なのが「市場の失敗」

→ 疑問があればCOLUMN「最低賃金をめぐる論争」に触れる

## 6 OPINION (5分)

**問題** 「市場が決める価格（メジャーワーカーとエッセンシャルワーカーの報酬格差）は適正だろうか？」

先ほどグループワークで議論したのと同じ問いに対して、個人で意見を書く（QRコードを読み取る）のとき、「もの」「価値」をどうやって決めるか/測るかに対する自身の考えを述べさせる

## 7 意見の共有 (5分)

時間があれば、ペアでOPINIONに書いた内容をお互いに発表させる

2700億という格差の大きさに対する漠然とした意見を問いたい。「2700億という差はあまりにも大きく、保守的な社会がそれがそれほど小さいとは漠然的に考えられないから、市場価格が適正でない場合もあると考えるを得ない」と考えれば、「2700億という格差が適正であることもあり得る」と考えれば、Aの考え方に対する賛否がわかる。

## ◎ 指導のポイント

- 経済分野全体の導入でもあるので、生徒が「疑問を持つこと」を大事にする
- 疑問の解決は知識編や以前の単元で行えばよい
- 特に、「価値（賃金）」の良さ悪しを考えて議論した」という経験が重要

指導上の留意点

● この時点では「OPINION」を記述しなくてよい。なるべく色々な意見が出やすいよう、質問が適当であることを意識させる

● 「単に自分が好きなものをひいき」することは本文で批判的に賞賛されているが、生徒に教えて一度そういう意見を言わせる方が価値観の多様性を意識させやすい

● 議論が深まっていったら、教員の側から「質問書に対する回答」のような例を出して「支払い能力の格差」に気づかせると良い

● 自分の学習内容が定義されているけれど、ここで市場主義が功利主義を前提にしていることに触れても良い

● OPINIONを書く時間はフレキシブル。ディスカッションで時間配分が割れても、ここで調整できる

● OPINIONを共有する方法はいろいろある。各学校で導入しているITツールに応じて適切なものを選んで良い

## 奨学金の金利は どう決めるべきか？



本題のねらい	金融取引の基礎および企業について学ぶ前である。金利の決まり方や債券市場の構造は、第5節 財政金融政策を理解するための基礎知識となる。奨学金など生活にとって身近な題材を活用しつつ、金融市場のしくみについて理解できるようにしたい。
本題内で学ぶこととなる知識・制度の概要	リスクとリターン、利回り、リスクフリー・レート、ソーシャルボンド、東洋金融、関係金融、短期金融市場と長期金融市場、信用創造、証券市場、上場、所有と経営の分離、株式市場、企業統治、ESG投資
プロローグ授業終了時の生徒の状況	借り手のリスクや貸出期間の長さに応じて金利が決まるという視点を獲得し、住宅ローン金利など身近な金利がなぜその水準なのかを原理的に思考できるようにする。

### 導入動画のねらい

「資金を借りるときには返済を考慮しなければならない」という視点を考えるきっかけとする。導入動画ではモノを借りた側が支払うとしてバググロウジーなど全くのぐらくたを返す期間が短いところである。動画視聴後に、お金を借りるときはレンタル料が金利であること、これ「金利は何にも設定するのが妥当か」と問うことでプロローグと関連づけたい。

### 授業のねらい

導入動画より一歩踏み込んだ内容となっている。資金を借りる主体が同一人物であっても、貸出期間の場合は使用リスクが上がり、高い金利が求められることがコアポイントで強調される。実際の事例として、中国では返済保証が借入者の信用リスクを軽減または無視をもたらす点を示し、使用リスクの非対称性によって活用されていることなどを紹介すると理解を促したい。

## Prologueの意図：

2025年に、フジ・メディア・ホールディングス（以下、フジHD）が性加害をめぐる不祥事で批判を集めた際、同社の株価が急落したことをご存じだろうか。出資者の多くがフジHDの株価を手放したことで、同社の株価が下落し、利回りが上昇したのである。金利や利回りが増えるカラクリを学習することで、日々のニュースが金融市場にどう影響するのかを予想できるようにする。

高利貸では「日割が金利をコントロールする」という概念が強調されがら、それでは「消費者の金利はなぜ高いのか」「なぜ長期金利は短期金利より高いのか」など日常の疑問を解決することはできない。以上を踏まえ、本プロローグでは高校生にとって身近な奨学金を題材とし、前半部分では金融市場における金利の決まり方を丁寧に論じた。リスクとリターンの原理、リスクフリー・レートなど重要概念を押さえた。後半部分ではソーシャルボンドをキーワードに、債券による資金調達や奨学金のような公益的な高い事業を支える手段にもなり得る点に言及した。東京大学が研究教育費を調達するために、投資家に向けて「東京大学債」という債券を発行したことも触れると面白いだろう。

## 背景知識の解説：

教科書p.80「第二種奨学金の固定金利は、リスクフリー・レート（国債の利回り0.771%）に貸し倒れリスクを上乗せした1.069%という水準に設定されていました」（17行目）について、①国債（債券）の利回りとは何か、②国

債（債券）の利回りはどのように決まるのか、という疑問が想定される。この問いに回答するために必要な前提知識を、①金融取引におけるリスクの意味、②債券市場のしくみ、③利回りの計算方法、の3点に分けて解説する。p.83の例①～③（金利のしくみ、債券、利回り）の前提知識としても活用されたい。

### ①リスクとは何か

金融において「リスクがある」とは、資金を提供して最終的に得られるリターンが不確定だ、ということの意味。例えば株式投資では、株価の変動によって大きな損失を被る可能性もあれば、大きな収益を得る可能性もある。この変動幅がリスクの正体である。債券と株式を比較すると、債券の方がより低リスク低リターンといえる。株式は期待するリターンを予測しづらいが、債券は返済期間（満期）が設定される。満期に支払われる金利（利率）も決まっているから、投資家の視点に立つと、好景気で株価が上昇傾向ならば、株式の方が資産を大きく増やせる可能性が高い。一方で、不景気で株価の変動が激しい場合は、債券を購入する方がより低リスクで資産形成できる。

### ②債券市場のしくみ—発行市場と流通市場—

#### ③債券とは何か

債券とは、資金を調達するために発行される証券であり、投資家がこの証券（債券）を購入すると、設定された返済期間（満期）まで定期的に（年ごと）に金利を受け取り、満期まで持ち帰ると元本が返済される。日本政府財源費が発行する債券は国債、企業が発行する債券は社債とよばれる。

#### ④発行市場と流通市場

新たに債券が発行される場合、発行価格と表面金利（利率）が設定される。例えば「発行価格100万円、表面金利2%、満期1年の日本国債」は、投資家が100万円を支払って国債を購入すると、1年後に元本100万円と金利分の2万円が返済される利払いの期間は原則半年だが、単純化のため1年と仮定する。債券が新たに発行される市場を発行市場という。

一方で、債券には転売市場が存在する。発行市場で国債を購入した投資家は、満期を待たずにその国債を別の投資家に売却できる点である。債券を途中で売却する動機としては、(A) 発行元が経営悪化で返済不能のリスクが高まった、(B) 買収対象として投資したほうが大きなリターンが見込めると判断した、などがある。債券の転売が行われる市場を流通市場という。

流通市場での取引価格は発行価格と必ずしも一致せず、債券に対する需要の大きさに決まる。例えば、好景気で多くの投資家が債券より株式投資を重視するた、国債への需要は冷え込み、発行価格100万円の国債が97万円で売買されることがある。逆に、不景気で株値が不安定な場合は、安全資産と称される国債に買い注文が集まるため、発行価格100万円の国債が101万円で購入されることがあり得る。

### ③利回りの計算方法

債券の利回りとは、流通市場（転売市場）での購入額に対するリターンの大きさである。例えば発行価格100万円、表面金利2%、満期1年の日本国債を97万円で購入した場合、満期まで持ち帰ると計102万円が返済されるため、購入価格97万円に対するリターン（利回り）は $(102万円 - 97万円) / 97万円 \times 100 = 3.09\%$ となる。

フジHDが性加害に関して耳目を集めた際、多くの投資家がフジHDの株価を売却したため、流通市場でフジHDの株価の取引価格が下落し、結果として利回りが上昇した。この事例から「債券価格が下落すると利回りが上昇する」をイメージしやすくするだろう。

### OPINIONのねらい

いずれか1つの考え方を正解とするのではなく、奨学金制度の意義や調達を多面的に考察するための手がかりとして用いたい。本学習資料は資金を借りる側の視点から入る考え方を重視する生徒が多いと予想するが、単元学習後は、資金を貸す側の視点を獲得して別の考え方を考える生徒も増えるだろう。Cの考え方は、経済学編プロローグ「大学教育の公益負担について考える」への関連性も示す。

## 録音編2 奨学金の金利はどう決めるべきか？

奨学金の金利(日本比較)  
日本:約1% / 米国の約6%  
→米国の金利は高すぎる?

高い流れ  
・学生の負担  
・借入額の上昇  
・返済期間の長さ  
・返済額の上昇

### 金利の決まり方

- ① 需要と供給
- ・資金需要が増加(減少)
  - 金利は上昇(低下)
  - ・資金供給が増加(減少)
  - 金利は低下(上昇)
- ② リスクとリターン
- ・**貸出側のリスクが高い**
  - 高い(低い)金利を設定
- リスクになり得るもの
- ・返済能力 / 返済期間 / 等

### 金利を決める際の基準

- ・リスクが最も低い物につく金利
  - リスクフリーレート**
  - 日本:日本国債(10年物の利回り)
  - 米国:米国債(10年物の利回り)
  - リスクとリターンの関係にもとづくこと
  - ・米国の学生ローン金利がリスクに見合った水準かどうかをみる
- 日本の奨学金制度をどう改革すべきか?
- 考え方A:賛成15% / 反対30%
- 考え方B:賛成22% / 反対20%
- 考え方C:賛成18% / 反対17%

導入  
5分

## 1 授業の導入 (板書案:左列)

p.79の冒頭「日本で異なる奨学金の金利」の節を読み上げ、本プロローグで何を学ぶかを確認する

### 疑問 「アメリカの学生ローン金利は高すぎるのか？」

想定回答 学生の負担を考慮すると高すぎる  
文化的違いだから仕方ない 等  
→奨学金の金利はどう決めるのか、という本題へと展開

知識を  
使う場面

#### 疑問 「この議論の真意はどこほ？」

- 回答例 「利子の代わりにがらつかず手渡されること」
- 奨学金の無償化は返済のリスクを減らすことと見なされる

意見を  
使う場面

#### ● 生徒2名を指名し、深淵のセリフを読ませる

- 回答例 「借り手の信用が上がる/下がる原因は何か? (複数)」
- 回答例 「返済額の上昇/職安/収入/借金の有無 など」
- 芝居使用(中国)は消費者の使用を「借入リスク」として点数化し、金利の決定やローン審査に活用していることを紹介

## 2 Prologue~構造理解

- 生徒を指名し、「金利の決まり方」を音読させる
- 最終的に、板書案(中列)に沿って金利の決まり方を解説するプロローグでは省略されているが「借り手が増える(減る)→金利は上がる(下がる)」「借り手が減る(増える)→金利が下がる(上がる)」という「需要と供給」の考え方ももれておくこと
- 疑問の問い「〇〇が資金を借りる場合、返済までの期間が3年間の場合と5年間の場合で、設定される金利が高いのはどちらか?」の模範解答:「個人期間が良い方。理由は、〇〇前の収入が変動したり失職したりするリスクが高いから」

・冒頭の文章は生徒に読ませても良い

・米国の学生ローン金利の節を通じて、まずは「利用者の側から見て高すぎる」という感覚を持つことを見守る

・プロローグの学習をコアに収める場合、深淵と高淵はどちらか一方だけを使うのが良い

・本单元では動画よりも深淵のほうが金融の学習内容に正確に合致した内容となっているため、いづれも活用する場合は高淵→深淵の順に進めるのが望ましい

・すべての生徒に文章をしっかり読ませたい場合、複製しながら生徒を指名して要点部分を音読させるように

・プロローグでは借り手個人のリスクに焦点が当てられているが、同一人物が資金を借りる場合でも、返済までの期間の違いほど貸し出しリスクが高まるため、より高い金利が設定される点にも留意したい

導入  
5分

28

学習活動

教師上の留意点

導入  
10分

- 生徒を指名し「なぜ米国の学生ローン金利は高いのか」「日本の奨学金制度は「やさしい」か」を音読させる
- 板書案(右列上)に沿ってリスクフリーレートの考え方を解説する
- 日本:奨学金の金利は日本国債の利回りを参考に決められている
  - ・華夏の公益性を考慮し、金利は上限が設定
- 米国:学生ローンの金利は米国債の利回りを参考に決められている
  - ・金利の上限は設定されず、米国の利回りによって決定
- リスクとリターンの関係にもとづくこと、米国の学生ローンの金利がリスクに見合った水準であると認めることもできる、という見方にも触れる
- ここまでの内容で「国債とは何か?」「利回りとは何か?」「なぜ日本と米国で国債の利回りが全く違うのか?」など生徒から質問に関する質問が出た場合は、プロローグ後半に進まず、残りの時間を板書案「背景知識」を参照しながら、債券市場の解説をしてもよい

・本プロローグの主題は金利の決まり方(メカニズム)を理解することであるため、時間的に余裕がない場合は後半部分(奨学金制度のあるべき顔)を無視し読む必要はない(自習課題として生徒に読ませるだけでも、新たな視点を提供できるだろう)

・利回りについて質問が出た場合は、「知識編でしっかり学習しよう」という形で知識編の補強づけにしてもよい。

ディスカッション  
15分

## 3 全体ディスカッション (15分)

- 生徒を指名し「学びを支える環境の違い」「ソーシャルボンド」という試み」を音読させる

### 疑問 「日本の奨学金制度をどう改革すべきか?」

- 考え方A~Cについて賛成か反対か举手させ、それぞれ的人数を数え取ったうえで、生徒に意見を発表させる

#### 考え方のポイント

- 疑問:「日本の奨学金制度は米国のように改善すべきでしょうか?」
- 生徒1:「日本の奨学金制度は米国のほどではないの、悪い点が多いです。金利も高すぎます。(考え方A)」
- 教師:「金利を下げるのとリスクフリーレート(ゼロ)になりますが、リスクよりも金利を高く設定しては人権問題ではないでしょうか?」
- 生徒2:「奨学金制度の公益性を考慮して、金利を下げても奨学金の利用者が減って、奨学金制度の公益性が損なわれるのではないかと懸念しています。」
- 生徒3:「そのままだけはかかるとは、金利を下げると奨学金の利用者が減って、奨学金制度の公益性が損なわれるのではないかと懸念しています。」
- 生徒4:「奨学金制度が広がるためには、高い金利を下げるよりも、ソーシャルボンドを創出して奨学金を返済する仕組みを創出する必要があります。(考え方B)」
- 生徒5:「日本には文化や社会に慣れが足りない、金融教育や奨学金の意義を伝える試みも、まだ必要だと思います。本気で日本でも奨学金制度を創出したいです。また必要に応じて、米国の制度を参考に、高金利制度を無償化して奨学金を創出するのはいかがでしょうか?」
- 教師:「教育費を負担するの2人であるべきが、政府であるべきか、という観点が出てきました。このほかの観点でも考えてみましょう。」

まとめ  
10分

## 4 OPINION (5分)

### 疑問 「日本の奨学金制度をどう改革すべきか?」

先ほど教室で議論したのと同じ問いに対して、個人で意見を書く(IGFコードを読み取る)

## 5 意見の共有 (5分)

時間があれば、ペアでOPINIONに書いた内容をお互いに発表させる

## ◎ 指導のポイント

- 金融取引ではリスクに見合った金利が設定されるという原理を理解させる
- 疑問の問いを繰り返しながら、抽象的な説明にならないよう配慮する

29



